



新 宮古島市 neo 歴史文化ロード

新 宮古島市 neo 歴史文化ロード

綾道

あやんつ

四島・西辺コース

ゆすま にしへ

綾道

あやんつ

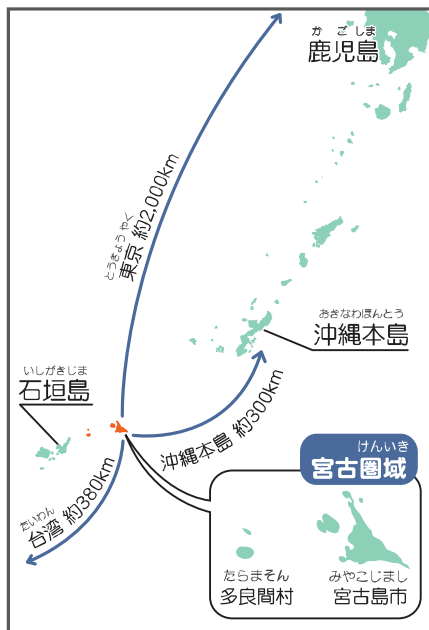
あやんつ みる みるこぼる
「趣のある道」のこを、何古島のことばで「あやんつ」といいます

みやこしまし いちめんせき
宮古島の位置と面積

宮古島市は大小6つの島(宮古島、池間島、大神島、くりま、いらぶ、しもじ)で構成されています。

総面積は204キロ平方メートル、人口約5万5,000人で、人口の大部分は平良地区に集中しています。

島全体がほぼ平坦で、山岳部や大きな河川もなく、生活用水などのほとんどを地下水に頼っています。



宮古島市neo歴史文化ロード **綾道 (四島・西辺コース)**

※御嶽は祭祀などを行う大切な場所です。神聖な場所なので入らないようにしましょう。

宮古島の位置と面積	02
明治30年代の宮古郡地図	03

散策マップ(四島・西辺コース) 06

四島の主の墓 市指定史跡	08
四島の主と墓	09
「四島の主」の功績	10

散策マップ(池間コース) 12

池間島の概要	11
大主御嶽(ナナムイ) 拝所	14
池間島のマークツツ 県選択無形民俗文化財・市指定無形民俗文化財	15
男性が中心のマークツツ	16
女性が中心のユークイ	17
いろいろな用途に使われた土地・スクニャー	18
移住者を送り出した池間島	19
八重干瀬 国指定名勝及び天然記念物	20
八重干瀬に沈んだプロビデンス号	21

散策マップ(狩俣コース) 22

狩俣の概要	24
狩俣の村立ての伝承	25
イスッガー(磯井)・クスヌカー(後の井) 市指定有形民俗文化財	26
狩俣の植物群落 市指定天然記念物(植物)	27
クバラパアズの復讐	28
13~14世紀 宮古の豪族とグスク	29
狩俣のツナカキヤー(追い込み漁)	30

散策マップ(島尻コース) 32

島尻の概要	34
島尻元島とシナカガー 市指定史跡	35

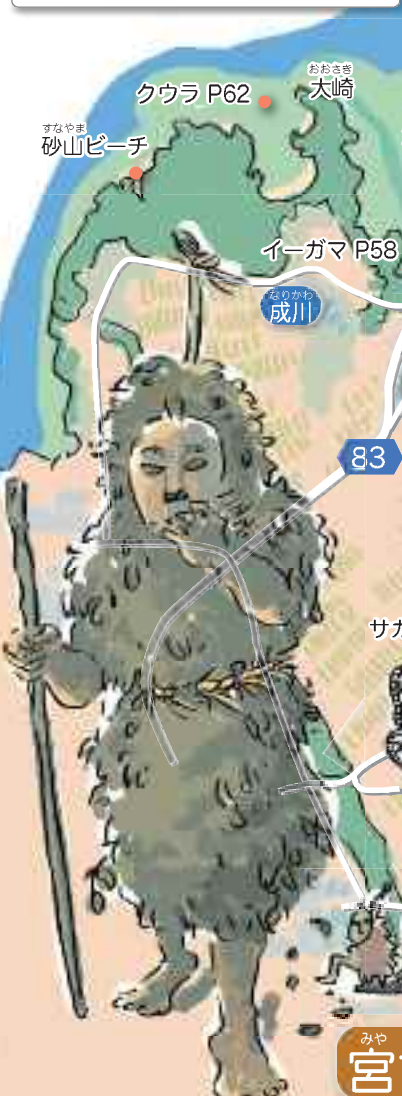


みや こじま	しまじり	くに していじゅうようむ けい ぶん せき ぶん か ざい	36							
宮古島のパーントゥ(島尻) 国指定重要無形民俗文化財										
らいほう しん	か めん	か そう	か み が み	くに せい じゅう よう む けい ぶん せき ぶん か ざい	36					
来訪神：仮面・仮装の神々 ユネスコ無形文化遺産										
パーントゥとともに登録された来訪神たち.....			37							
しまじり										
島尻のパーントゥ・プナハ.....			38							
しま じり だん	そう がい	かいしよくだい	し して いてん ねん き ねん ぶつ	ち しつ	40					
島尻断層崖と海食台 市指定天然記念物(地質)										
しま じり	く	かいしよくだい	し して いてん ねん き ねん ぶつ	ち しつ	41					
シマジリクジラ化石 市指定天然記念物(地質)										
す かい	しま じり だん	そう がい	かいしよくだい		42					
図解！ 島尻断層崖と海食台										
しま じり	りん	し して いてん ねん き ねん ぶつ	しよくぶつ		43					
島尻のマングローブ林 市指定天然記念物(植物)										
散策マップ(大神コース)			44							
おお が み	がい よう				46					
大神の概要										
ひ さい	そ しん さい				47					
秘祭 祖神祭(ウヤガン・ウヤーン)										
たい せき ぶつ	しま	りゅう き			48					
堆積物からわかる島の隆起										
みや こ じ ま	いっ ぱん てき	ち そう			49					
宮古島の一般的な地層										
さき しま しょう とう	う	ばん むい	とお み	ばん しょう	いけ ま	かり また	しま じり	おお が み	くに して いし せき	50
先島諸島火番盛(遠見番所) 池間・狩俣・島尻・大神 国指定史跡										
こくりつりょう ようじょう	みや こ	なん せい えん			51					
国立療養所 宮古南静園										
いし か べ	つか				52					
石壁などに使われたビーチロック										
まだまだある！魚垣			53							
散策マップ(西辺コース)			54							
にし べ	がい よう				56					
西辺の概要										
うぶ ら た す	おお う ら し ゅ う ら く				57					
大浦多志と大浦集落										
い じ ゅ う	き	て			58					
移住の決め手になったイーガマとヒダガー										
う は る ず	う た き	いー	ぬ	う た き	59					
大主御嶽(西の御嶽) 拝所										
にし はら					60					
西原のミャークツツ										
にし はら					61					
西原のユークイ										
うぶ ら	く う ら				62					
大浦と小浦										
おお の	ご し はい すい こう				63					
大野越排水溝(トンネル) 国登録有形文化財(建造物)										
いこ	ば	おお の	ざん りん		64					
憩いの場だけじゃない 大野山林										
ぶん か ざい	たい けい ず	いち れい			66					
文化財の体系図・一例										

四島・西辺コース



- 西辺** コース P54
- 大浦多志と大浦集落 P57
 - イーガマとヒダガー P58
 - 西原のマークツツ P60
 - 西原のユークイ P61



池間島

- 池間** コース P12
- 大主御嶽(ナナムイ) P14
 - 池間島のマークツツ P15
 - 先島諸島火番盛(遠見番所)
 - 池間遠見番所 P50

狩俣

- コース P22
- 先島諸島火番盛(遠見番所)
 - 狩俣遠見番所 P50
 - イスウガー(磯井) P26
 - クスヌカー(後の井) P26
 - 狩俣の植物群落 P27

八重干瀬 P20

- 先島諸島火番盛(遠見番所)
- 大神遠見番所 P50

大神島

大神コース P44

島尻

- コース P32
- 島尻元島とソナカガー P35
 - 先島諸島火番盛(遠見番所)
 - 島尻遠見番所 P50
 - 宮古島のパートゥ P36
 - 島尻断層崖と海食台 P40
 - シマジリクジラ化石 P41
 - 島尻のマングローブ林 P43

四島の主の墓 P08

- スガミヌカー P09
- 魚垣 P53
- 石切場 P52
- 野田山林
- 又ストウナガマ
- 国立療養所宮古南静園 P51

クウラ P62

砂山ビーチ

大浦

大浦湾

大浦多志城跡 P57

イーガマ P58

大主御嶽 P59

西原

サガリバナ群生地 P62

大野山林 P64

宮古市熱帯植物園 P64

大野越排水溝 P63

宮古市総合博物館 P65

広瀬御嶽

バナタガ一嶺の海軍砲台・トーチカ (戦争遺跡編 P28)

広瀬尾神崎

白川浜

白川田水源地・貯水池

『与那覇勢頭豊見親 松平なむしはつらひんしつらばつち 沖繩島発見出発の地』碑

高野漁港



ゆ すま しゅう はか
四島の主の墓



この墓は、島尻、大神、狩俣、池間の4集落(四島)を見渡せる
小高い場所にあります。宮古の方言で集落を「島」といい、四島
の主とは、「4つの集落の主長」という意味合いを持ちます。

四島の主は、農耕を奨励し、平良を往来する街道の整備と、道
沿いに井戸や休憩所を設置するなど、住
民の生活をよりよくするために尽力しま
した。四島の主の生没年は不詳で、この
墓は近年まで主の子孫によって代々使用
されてきたと伝えられています。



ゆ すま しゅう はか
四島の主と墓

『宮古史伝』(1927)、『宮古島
庶民史』(1957)などの歴史書によ
ると、四島の主の生没年は「不
詳」とされています。

古謡の「四島之主のアヤゴ」
に、仲宗根豊見親が登場すること
から、おそらく15世紀末~16世紀
始め頃の人物ではないかと考えら
れています。

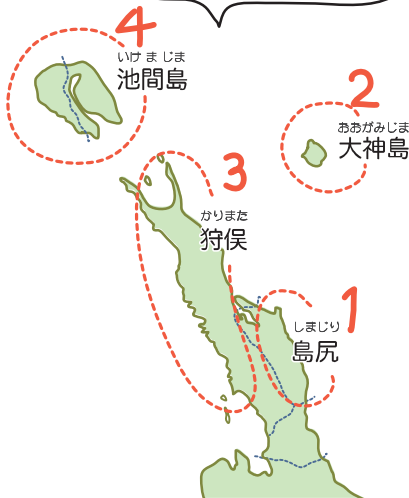
四島の主は狩俣の真屋(屋号)で
生まれ、百佐盛と名乗り、幼い頃

から頭がよく、文筆才能に優れて
いたとされます。

集落には、四島の主のものだと
される墓が4基あるといわれてお
り、その頃は偉人の骨は盗られや
すかったため、カモフラージュと
していくつも造ったのではないかと
考えられています。

4基の墓のうち2基は所在が
はっきりしていますが、残り2基
は分かっていません。

集落=島(すま)。
この4つの「島」の
主長だったといわれる。



① 
文化財指定されている墓

② 
狩俣駐在所の向かいにある墓

③ ? ④ ?

「四島の主」の功績

造船

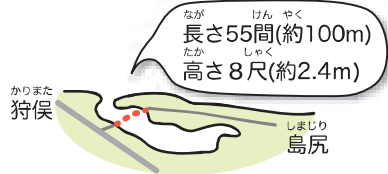


いりおもてしま
西表島

四島の主は、仲宗根豊見親の命によって、八重山諸島の西表島古見で船大工を集め、数か月かけて新しい船を完成させました。仲宗根豊見親は平良の漲水港で四島の主を出迎えるほどの喜びようだったと伝えられています。その後、その船で首里へ貢物を納める大任も果たし、四島の主の名は宮古だけでなく沖縄まで知られるようになりました。

石橋の築造

狩俣と島尻の間に大きな入り江があり、人々は苦労して迂回していました。そこで、四島の主は住民と共に石橋を築造。人々はこの橋をバタラズパス(渡地橋)と呼び、民謡にも



うたわれています。石橋は戦後消失し、現在は少し海側にコンクリート造りの橋がかけられています。

井戸の掘削と休憩所の設置



昔は、狩俣から平良の間を往復することは大変でした。

そこで、四島の主は、狩俣と平良間の街道にいくつかの井戸を掘り、側にユカイ・ドゥクルと呼ばれる休憩所を設置。貴重な休憩の場として、集落の人々に長く利用されました。現在、狩俣中学校前にスガミヌカーという井戸が1か所だけ残っています。

いけ ま じま
池間島



池間島は宮古島の北に位置します。周囲 9 km で、池間大橋で宮古島とつながっており、池間と前里のふたつの字から成ります。島の中央にある宮古唯一の淡水の湿原である池間湿原は、渡り鳥を観察できる場として有名です。

湿原は、かつては漁港からつながる入り江で、島の食料庫でした。さらに島の北方には良好な漁場でもある八重干瀬という広大なサンゴ礁群があり、20世紀初頭から始まったカツオ漁業も加わって、池間島といえば「カツオ一本釣り」を連想させるほどになりました。

池間コース

散策コース →
徒歩 -----

所用時間: 車で1時間30分
(約16.6km)

大神島



- ユークイの巡拝順と拝所名
- ① ナカマニ
 - ② マーンツ(航海安全の神)
 - ③ ムイクス(酒の神)
 - ④ パナバリンミ(神の通る道)
 - ⑤ フナクス(唐の神)
 - ⑥ ウィラ(豊穡の神)
 - ⑦ フィカー(赤豆の神)
 - ⑧ カーター(井戸)
 - ⑨ ナップア(航海安全の神)
 - ⑩ ナカマニへ戻る



1956年頃の埋め立て前のおおよその海岸線

おはるず う たき

大主御嶽(ナナムイ)



この御嶽を、池間の人は「ナナムイ」と呼びます。池間島で最も崇敬され、島の守護神とされる御嶽で男子禁制です。

池間の年間祭祀の中心的な祭場で、男神「うらせりくためなうの真主」と宮古の十二方の神々を生んだ「子方母天太」という母神が祀られています。

旧暦8～9月のマークヅツの3日間を除き、一般の人の立ち入りは禁じられています。



けんせんたくむけいみんぞくぶんかざい
県選抜無形民俗文化財

1981(昭和56)年1月26日選抜

ししでい
市指定無形民俗文化財

2005(平成17)年9月28日指定

いけまじま

池間島のマークツツ



さいだいぎょうじ まいとしきゅうれき
池間島のマークツツは池間最大の行事で、毎年旧暦8～
きのえうま ひ おごな
9月の甲午の日から3日間にわたって行われます。

しゅっしん さいいじょう だんせい こうせい
池間島出身の55歳以上の男性で構成されるムトゥヌウヤた
ちゅうしん しよ まじや あます まい やー まえざと
ちを中心に、4か所のムトゥ(真謝・上げ枺・前又屋・前里)で
と ぶんそん
執り行われます。池間島から分村した
いらぶ さらはま ひらにしはら どうじつ
伊良部島佐良浜や平良西原でも、同日
ちいぎとくゆう
にそれぞれの地域特有のマークツツ
せいだい
が盛大に行われています。



男性が中心のマークツツ

マークツツは季節の変わり目に行く「節祭り」です。重税を納めるために過酷な日々を送ってきた村中の人々が集い、無事に税を納められたことを喜びあひ、休息をとり、踊り楽しんだのが始まりだといわれています。



女性が中心のユークイ

ユークイは女性中心の祭祀で、宮古各地で大切にされてきました。ユーは「豊かな世」、クイは「乞う」を意味し、台風や干ばつなどの厳しい自然条件の中、集落の無病息災や五穀豊穡を祈ります。

池間島でもユークイは重要な祭祀のひとつとされ、旧暦の9月に行われます。池間島で育った、または池間島に居住している51~55歳の女性は「ユークインマ」と称されます。ユークインマたちは神歌をうたい、クイチャーを踊るなどして9つの拝所を巡拝し、神々に豊作や航海安全などの祈願をします。



いろいろな用途に使われた土地・スクニャー

『池間小学校発祥之地』の碑が建つスクニャーと呼ばれるこの小さな一帯は、集落の歴史を垣間見ることができるといわれています。

小学校跡地の東側にはトゥヌガナス御嶽があり、学問・出世の神が祀られています。その脇には円状の石を積み上げた古墳があり、漂着した遺体を埋葬したといわれています。

小学校が建てられる前は、前里村番所があり、1895(明治28)年には、西辺尋常小学校の仮教場として幕をあげました。1903(明治36)年に校舎が改築され、学校名も池間尋常小学校と改

称しました。ちなみに、この年に人頭税がようやく廃止されています。

この頃、各地の学校に設置された奉安室には、教育勅語と天皇・皇后の写真が収められました。池間は敷地内に奉安殿という独立した建造物として1928(昭和3)年に設置されており、前を通る際には最敬礼することとされてきました。損傷が激しいですが、現存し、県内最古です。1938(昭和13)年に小学校は現在のユニムイの地へ移転しましたが、その後も、青年会場や幼稚園など、長く利用され続けました。



ほうあんでん
奉安殿

↑
建設は子どもたち
手伝った。



いじゅうしゃ おく だ いけ ま じま
移住者を送り出しつづけた池間島

池間島は、小さい島ながら数百
 年にわたって移住者を送り出しつ
 づけ、池間民族の歴史を築きあげ
 てきた島ともいえます。

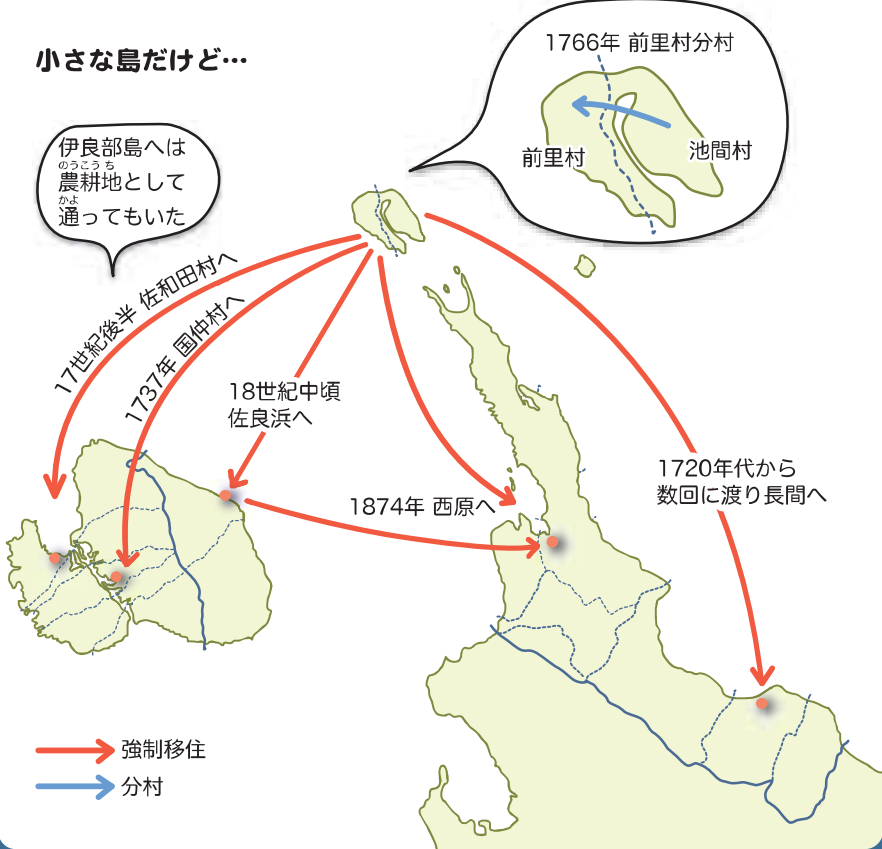
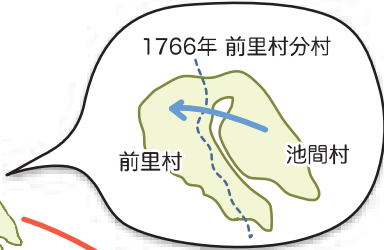
1600年代頃、宮古諸島内でマラ
 リアが大流行し、多くの人々が亡く
 なくなりました。琉球王府は廃村の危
 機に陥った村々を再建させるた

め、池間島から伊良部島の佐和田
 村、国仲村、城辺の長間村へ強制
 的に移住させました。

1766(明和3)年には、人口増加
 に伴い、池間村から前里村が分村
 し、さらにその約100年後の1874
 (明治7)年に、西原村が村立てさ
 れました。

小さな島だけど…

伊良部島へは
 農耕地として
 通ってもいた



→ 強制移住
 → 分村

や び じ

八重干瀬



八重干瀬は、池間島北方5 km先に広がる、大小100余りの日本有数のサンゴ礁群です。春から夏にかけての大潮の時期に、海面上に多くのサンゴが姿を現すことから「幻の大陸」とも呼ばれています。2013(平成25)年に国の文化財として指定され、翌年にフデ岩が追加指定されています。それぞれのリーフは細かく名前がつけられており、池間をはじめとする漁師の大事な漁場でもあります。



やびししず とう
八重干瀬に沈んだプロビデンス号

1797年、イギリス軍艦プロビデンス号が、北太平洋海域の探検調査を目的としてイギリスからアメリカ、ハワイ、北海道の室蘭を経由し、宮古島沖の八重干瀬で座礁、沈没しました。座礁した詳細は、艦長のブロートンが著した『北太平洋探検航海記』(1804)に記録されています。

座礁地点の海底からは、散乱したワインの瓶や船のパーツ、イギリス海軍の刻印が入った鉄塊などが発見されています。

プロビデンス号のほかにも、進貢船や外国船などが八重干瀬で座礁したという多くの記録が残されています。



せんちょう はば
全長33m、幅9m、
400トンの帆船
(乗員115人)



地域の特徴ある埋蔵文化財公開活用事業第2回
『海の歴史にふれる～宮古島の水中文化遺産～』
(2020年10月18日)より

本物の設計図から、細部にいたるまで
精密に製作されたプロビデンス号の模型

狩俣コース

散策コース →

所用時間: 徒歩約30分
(約1km)



この地図は、池間島の狩俣地区の詳細な地図です。赤い線が散策コースを示しています。主要なランドマークや施設には以下の通りです:

- 西平安名崎 (西平名崎)
- 池間大橋 (池間大橋)
- 狩俣のツナカキヤ (狩俣のツナカキヤ)
- 狩俣漁港 (狩俣漁港)
- ウヤツ (西の浜) (ウヤツ)
- シドウ崎 (シドウ崎)
- 2013年に1本だけ発見 (2013年に1本だけ発見)
- 1771年の戦後の大津波の津波がここに来た。ズブ=目印 (1771年の戦後の大津波の津波がここに来た。ズブ=目印)
- リウキュウデシヤノキ (リュウキュウデシヤノキ)
- 230 (道路番号)
- 石垣の跡が使用済み。一部の人は出入禁止 (石垣の跡が使用済み。一部の人は出入禁止)
- 磯津御嶽 (磯津御嶽)
- 北門(トウユーピトイ) (祭祀用の門) (北門(トウユーピトイ) (祭祀用の門))
- 狩俣集落センター (狩俣集落センター)
- 狩俣購買店 (狩俣購買店)
- START (スタート)
- 西の大門 (西の大門)
- 宮古島市立狩俣小学校 (宮古島市立狩俣小学校)
- ウヤツ (ウヤツ)
- ふるむい うぶくふやま 郡杜(大城山) (ふるむい うぶくふやま 郡杜(大城山))
- 村番所跡 (村番所跡)
- 仲間ムトウ (仲間ムトウ)
- 大城ムトウ (大城ムトウ)
- 狩俣の植物群落 P27 (狩俣の植物群落 P27)
- スガミヌカー P10 (スガミヌカー P10)
- 四島の主の墓(2) P09 (四島の主の墓(2) P09)
- ズーガー (ズーガー)
- 東の大門 (東の大門)
- 仲嶺ムトウ (仲嶺ムトウ)
- 志立ムトウ (志立ムトウ)
- 天道 (天道)
- クバラパアズのイビ (クバラパアズのイビ)
- イ Sugar (磯井) P26 (イ Sugar (磯井) P26)
- クヌカー(後の井) P26 (クヌカー(後の井) P26)
- 狩俣遠見番所 P50 (狩俣遠見番所 P50)
- 先島諸島火番盛 (遠見番所) (先島諸島火番盛 (遠見番所))
- カキス(魚垣) P53 (カキス(魚垣) P53)
- 千瀬道 (千瀬道)
- 平良市街 (平良市街)
- 島尻 (島尻)
- ナナビタ (海) (ナナビタ (海))

※集落内の拝所や郡杜に許可なく立ち入ることは禁じられています

集落を囲む石垣と大門(推奨)



かり また

狩俣



狩俣は三方を海に囲まれ、農業を基盤とし、沿岸漁業も盛んです。『宮古八重山両島絵図帳』(1647)には、「かりまた村」と「根井間村」が記され、のちに統合されて「狩俣村」になりました。

明治の頃までは、集落は石垣と3つの門で囲われていました。これは他の地域では見られません。石垣の撤去は長い間避けられてきましたが、1900年代に人口増加にともない、集落の発展という名目の元、西の大門と石垣が取り払われました。北西にある祭祀用の石門は往時のままで、東の大門はいまの生活に合わせて改修されています。集落内には4つのムトゥがあり、夏ブース^{りゅうぐうにが}や竜宮願いなどの祭祀が行われています。

かり また むら だ でんしやう
狩俣の村立ての伝承

むかし とろゆんあかぶす ま ぬす
昔、豊見赤星テダナフラ真主と
めがみ とろぼる ち てん
いう女神が、当原という地に天か
ら した
ら降り立ちました。ところが当原
みず たいへんこま
の地は水がなく大変困ったので、
しまじり かいがん にし い どう
島尻の海岸を西へ移動し、イスウ
み うぶくふ やま ふん
ガー(磯井)を見つけ、大城山(郡
むい す はじ
杜)に住み始めました。

ある夜、真主は名も知らぬ若い
おとこ あいだ こ さず ゆめ かい
男との間に子を授かる夢を見て懐
妊し、7か月後に元気な男女の双
ご しゅっさん ちちおや
子を出産しました。しかし、父親
だれ
が誰なのかわかりません。

そこで真主は「初めて会う者を
だ せき
父親にしよう」と決め、ふたりを
だ で
抱いて出かけました。真主が大城
うら せ ぐ
山の裏の瀬(パナブツ)まで来る
とおいわ は だいじゃ であ
と、大岩を這う大蛇と出会いまし
た。大蛇は3人を見るなり、首を
あ お ふ おど
上げ、尾を振り、踊りはじめまし
た。真主は「きつと夢の中ゆめ なかの男
は、この大蛇けしん ちがの化身かくしんに違いない」
と確信し、大蛇を子どもたちの父
親にしました。

うたきゆらいき
『御嶽由来記』(1705)

しゅうらく
狩俣集落は、この女神豊見赤星
テダナウラ真主から始まったと伝
えられます。

真主むすこの息子「バブノホチテラヌ
ホチ豊見(ティダノブス)」は、集
うじがみ すうけい
落の氏神として崇敬されています。
むすめ やま あお
娘の「山ノフシライ青スバノ
真主」は、15歳さい ころくらいの頃、青
スバ(つる草)で作った冠をかぶ
はくい き つた
り、白衣を着てコウズ(蔦かづら)
こし ま かみ ふ みだ わたし
を腰に巻き、髪を振り乱して「私
よ ため かみ になる」と言って大
城山こもに籠ったのち、行方知らずと
なっていました。

その後、集落では神女たちがフ
シライおな すがたと同じ姿で大城山に籠り、
そ しんさい おこな
祖神祭(ウヤーン)を行うように
なったといわれています。

さんこう じちひやくねん
参考『自治百年』(2003)



イスウガー(磯井)

クスヌカー(後の井)



イスウガー



クスヌカー

イスウガーは狩俣集落発祥に関わる井泉で、古謡には「豊見赤
星テダナフラ真主」によって発見されたとうたわれています。祭
祀の際に、お茶湯の水として必ず加えられ、村立ての根幹に関わ
る貴重な井泉です。

クスヌカーは、時の酋長「大城殿」が掘った井戸で、掘削にあた
り、鉄製道具を使ったと古謡にうたわれていることから、鉄器の
伝来にも関わる重要な井泉と考えられています。

ふたつの井戸とも市の有形民俗文化財に指定されています。

かり また しよく ぶつ ぐん らく

狩俣の植物群落



狩俣コース

狩俣の植物群落は、集落後方の南北に伸びる丘陵に広がっています。宮古諸島内では最大規模の面積を有する自然林です。この丘陵は地形や地質など変化に富んでおり、その環境に合わせた様々な種類の植物が群生しています。

群落は古くから郡杜(大城山)と呼ばれ、磯津御嶽や大城御嶽など、集落にとって重要な拜所が存在するため、立ち入りが禁じられ、植物群落全域が神聖な場所として大切に保護されています。

ふくしゅう
クバラパアズの復讐

かくち ゆうりよく あず た なら
宮古各地に有力な按司が立ち並ん
でいた頃、クバラパアズとその妹
が、琉球の津堅島から白川浜に漂着
し、しばらくそこで暮らしてしまし
た。そのうち妹が石原城の思千代按
司の妻になったので、クバラパアズ
は住み良い地を求め、狩俣に移り住
みました。

クバラパアズは生まれつき妖術・
占術に長け、その上とても器用で、
狩俣集落を囲う石垣や門などを見事
に造りあげました。

ある日、妹が夫の思千代按司と長
男を糸数按司に暗殺されたと泣きな
がらに訴えてきました。怒ったクバ
ラパアズは「いつか絶対に仇を討
つ」と心に誓いました。

そんな折、糸数按司から「城が狭
くなったので大きな城を造って欲し
い」と依頼されました。しかしこれ
はクバラパアズの仇討ちのことを
知った糸数按司の罠でした。

ところがクバラパアズは罠である
ことを簡単に見抜きました。「いよ
いよこの時がきた。城は造らず、棺

おけ ひら
桶を造ることになるだろう」と、平
良へ出立しました。

どうちゅう てまえ んみ
道中、平良の手前にあるソノリ嶺
の坂道で、クバラパアズが木の葉に
のる どな いき ふ
呪いを唱え、ふっと息を吹きかける
と、木の葉は虻になり、勢いよく城
へと飛んでいきました。クバラパ
アズは、糸数城が見える所まで悠然と
向かいました。

その頃、糸数按司は城の廁で用を
た なが てつせい
足しながら、長い鉄製のかんざしで
みみ
耳かきをしていました。その按司の
て つよ か なん
手に、虻が強く咬みつきました。何
ど お はら つづ
度追い払っても虻はしつこく噛み続
けるので、怒った按司は、手に止
まった虻をもう一方の手で思いっき
り叩きました。ところが勢い余って
かんざしで耳の奥の急所を刺してし
まい、死んでしまったのです。

こうして、見事クバラパアズは仇
討ちに成功し、予言どおり、持参し
た大工道具で糸数按司の棺桶を造
り、狩俣へ帰って行きました。



13~14世紀 宮古の豪族とグスク

12世紀前後から16世紀頃まで続いた時代を、沖縄では「グスク時代」と呼んでいます。この頃、各地の有力者らは城を築き、それぞれの周辺地域を支配するようになりました。



この時代は、島外から新しい文化が持ち込まれ、人々の交流が盛んになり始めた時代でもあります。また鉄器の普及により、農耕が発達した時代で、人口も急激に増加していきました。

14世紀頃は群雄割拠の時代で、佐多大人と目黒盛が台頭し、二大勢力が争った結果、目黒盛に統一されます。その後、15世紀後半頃から、仲宗根豊見親の時代へと移り変わっていきます。

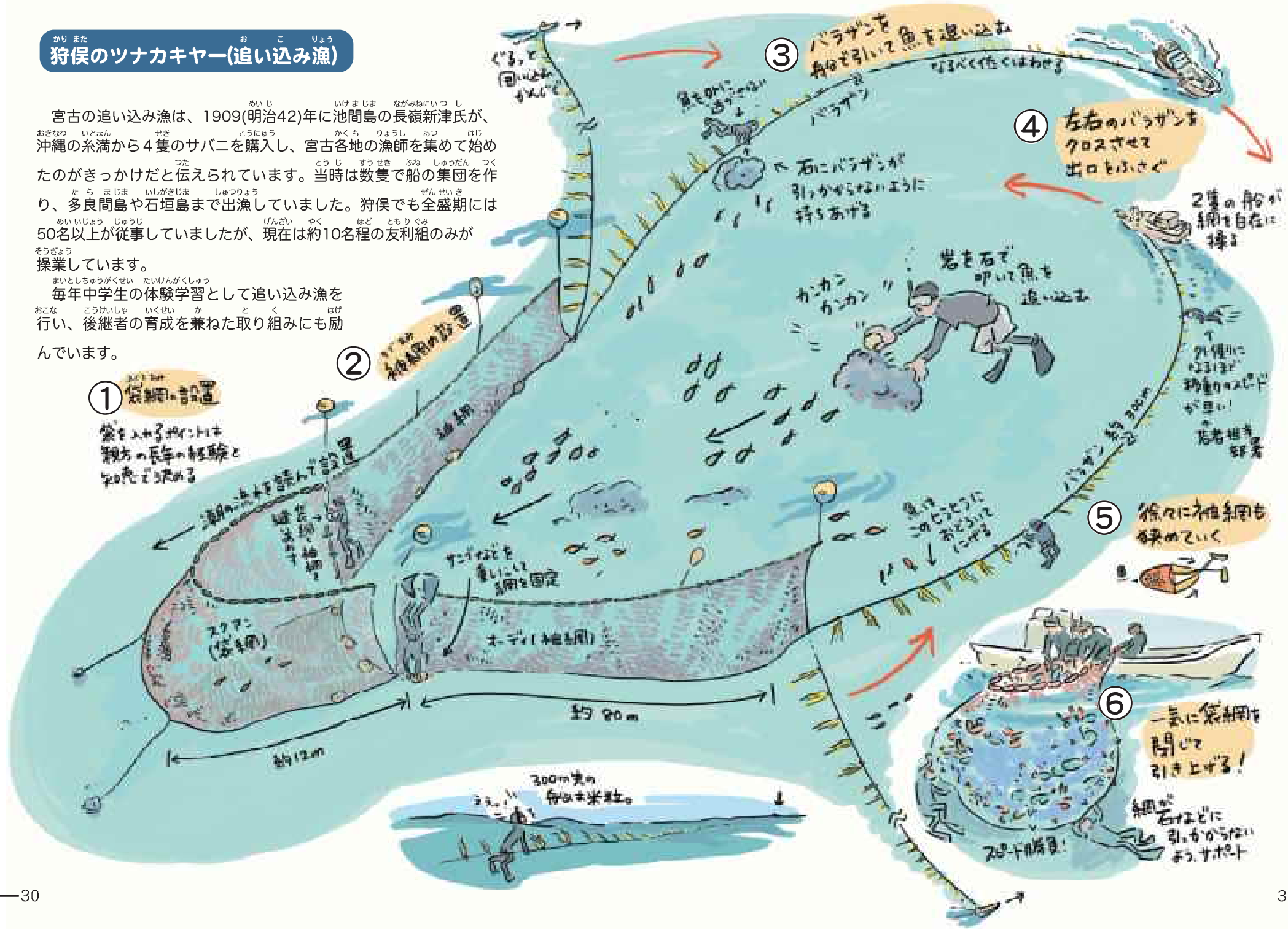
狩俣コース

※城の位置など詳細がわかりません

かりまた おこりょう
狩俣のツナカキヤー(追い込み漁)

宮古の追い込み漁は、1909(明治42)年に池間島の長嶺新津氏が、沖繩の糸満から4隻のサバコを購入し、宮古各地の漁師を集めて始めたのがきっかけだと伝えられています。当時は数隻で船の集団を作り、多良間島や石垣島まで出漁していました。狩俣でも全盛期には50名以上が従事していましたが、現在は約10名程の友利組のみが操業しています。

毎年中学生の体験学習として追い込み漁をおこなう。後継者の育成を兼ねた取り組みにも励んでいます。



① 袋網の設置
 袋を入るポイントに親方の長年の経験と知識で決める

②

③

④

⑤

⑥

狩俣コース

しまじり 島尻コース

さんさく 散策コース → とほ 徒歩

しよようしかんくま とほやく
所用時間:車と徒歩約1時間
(約3km)



まかい 泥岩の岩
この岩から
砕石を取った
トウサイトイパナリ

しまじり だんそろがい かいしよくだい
島尻断層崖と海食台 P40
しまじりくじら化石 P41

おおがみしま 大神島

しまじりもとしま 島尻元島とシナカガー P35

くぼま 小浜
しゅうらく 集落では
シナカガーと呼ぶ

方位石が設置され、
大神島が正面に見える。
池間から城廻まで一望
できる

ききしましまとほり ばんせい だるらばんしよ
先島諸島火番盛(遠見番所)
しまじりとおみばんしよ
島尻遠見番所 P50

ばたらすびし 渡地橋

ばたらすびしあと 渡地橋跡 P10

しまじり 島尻のマングローブ林 P43

あた この辺りは
すいでん 水田だった

さとかいかん パートウの里会館

しまじり 島尻パートウ
ちゅうばいてん 購買店
めぎいす

むらばんしよあと 村番所跡

シマリガー P38

みやこしま 宮古島のパートウ P36

もとみやしましよがっこう 元宮島小学校

リュウグウダー

いしきりば 石切場 P52

マングローブと生物

三日月の満ち欠けで、塩分が変動する場所には、様々な生物が生息している。ここでは、マングローブの生態とそこに生息する生物について紹介する。

1. ヤシノヒゲ
2. ツルニギ
3. メヒシキ
4. コシノボリ

島尻は、4種類のマングローブが生育している。開けた場所には、ヤシノヒゲとツルニギが、奥まった場所には、メヒシキとコシノボリが生息している。

マングローブは、潮の干満に合わせて、根を伸ばして水を吸い上げる。そのため、水が干涸びると枯死してしまう。また、土壌は酸性で、多くの生物が生きられない。しかし、マングローブは、多くの生物のすみかとなっている。

マングローブは、高さ1~3m、葉は白く、花は赤い。果実は、黒い。果実を食べると、口が苦くなる。また、果実を乾燥させて、お茶にする。お茶は、30年以上続く。

水量は豊富。
山田井にちなんで
「山田井」のお茶屋が
30年以上続く。



230

しゅうらくくない はいしよ きんか た い せん
※集落内の拝所に許可なく立ち入ることは禁じられています

しま じり

島尻



島尻は、「パーントウの里^{さと}」として知られ、祖神祭とパーントウ^しに代表される集落^{うやがん}です。1950(昭和25)年頃までは米どころとして有名で、わざわざ遠くから「島尻米^{だいはりょう}」を買い求めに来る人^{しゅうらく}で賑わいをみせていました。その後、収入の良いきび栽培^{しょうわ}へ^{ころ}転換し、現在は畜産業と果樹栽培も盛んです。^{こめ}

集落の始まりは分かっていませんが、『宮古八重山両島絵図^{ちよう}帳』(1647)に「嶋尻^{しま じり}」の名前があることから、その頃にはすでに村^{な まえ}があつたと考えられています。^{むら} ^{かんが}